放課後における子どもたちの居場所づくり、体験活動支援(放課後子ども教室)

学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)			地域学校協働活動
海陽町立 海部小学校	海部小学校運営協議会	地域学校協働活動推進員	1 名	0 名	海部っ子
	平成30年4月1日 設置	地域コーディネーター	0 名	0 名	

取組の背景及び目標や目指す姿

背景

近年、家庭環境が複雑化しており、保護者が平日働きに出ることで、放課後に保護者がいない家庭などの増加が見られる。そのような家庭の受け皿として、また地域で子どもを見守り、育てるだけでなく、様々な体験ができる場として、平成28年4月から海部小学校に通う児童を対象に海部っ子(放課後子ども教室)は設置された。

目標や目指す姿(学校)

複雑化する家庭環境の受け皿として、放課後の安全・安心な居場所作りを目指す。

目標や目指す姿(地域)

安全・安心な居場所として、地域社会の中で子どもたちが心豊かに育まれる環境作りを推進する。

海部小学校運営協議会　の特徴

委員の立場や属性等

- ☐ 教育活動サポーターなど
- ☐ 保護者・PTA関係者
- ☐ 小学校教員・元教員　　など、計　6 名で構成
- ☐ 民生委員・児童委員　　年間平均　3 回程度開催

効果的な運営の工夫

学校運営協議会の委員は、元PTA会長、教育活動サポーター、民生委員など地域で活動する方を人選することで、少ない委員数でも様々な視点からの意見を聞くことができる。また学校運営協議会は年3回の実施であるが、協議会以外で地域学校協働活動ごとに学校や地域学校協働活動推進員、町教育委員会などの各担当者が集まって行う、定期的な情報共有の場を設けることで、問題に対して迅速に対応ができ、整理された内容を学校運営協議会で協議することができている。

特徴的な取組と成果・効果

取組

学校運営協議会

学校運営協議会で、学校と放課後子ども教室が連携して児童たちを育成することの必要性を協議した。協議により、先生にも放課後子ども教室へ定期的に顔を出すことで、児童の学校以外での様子を知ってもらったり、放課後子ども教室でも学校の宿題支援や防災学習の支援を行ったりしている。

学校運営協議会の様子

地域学校協働活動

学校運営協議会の協議により、「コロナ禍でも様々な体験させてほしい」との意見を受け、室内中心で活動していた海部っ子の夏祭りを、屋外中心で行うことにし、感染症対策を徹底した上で、できる限り多様な体験の場を提供した。

海部っ子　夏祭りの様子

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

地域学校協働活動推進員などが、学校運営協議会や地域学校協働活動に参加し、地域からの意見を学校に提案したり、学校の現状や課題を日常の話題として地域に向け発信したりすることで、子どもと関わりたいと考えている地域の方に子どもと関わるきっかけを創出している。放課後子ども教室は、地域の方が指導員として関わることで、学校では出来ない経験や社会との関わり方を学ぶ場となっている。また定期的に行う運営協議会とは別の共有会議では、学校と地域だけでなく、教育委員会も入ることで行政との連携にも繋がっている。

成果・効果

[登録・参加数]

例年、全校児童の**約8割**に当たる児童が登録しており、毎日30人程度が参加をしている。

見守りを行っている推進員などからは「どれだけ疲れていても、放課後子ども教室を楽しみに来てくれる。」「上学年の児童が下学年の児童の面倒を見てくれる。」といった声があり、児童にとって放課後の憩いの場所、社交性などを身につける場となっている。

[学習支援]

毎日の放課後子ども教室で宿題をする癖を付けることで、宿題の提出の促進に繋がっている。また学期に1度以上防災学習の一環として避難訓練を実施することで、学校内外を問わずに災害が起きた際の対応を学ぶことが出来ている。

[先生の訪問]

定期的に放課後子ども教室、学校、教育委員会が集まり、共有会議を開いている。共有会議の開催を、放課後子ども教室の開設している場所にすることで、情報の共有だけでなく、実際に児童の学校以外での様子を定期的に見る機会となっている。児童側にとっても、先生が訪れることで良い意味で学校的な節度が保たれる効果がある。

[共有会議]

定期的に共有会議を開くことで、学校、放課後子ども教室の双方で一体となって児童の見守り体制を作ることが出来ている。放課後で気になる児童がいれば学校に報告をしたり、注意をしてもらう体制が出来ている。また共有会議以外でも、場所が近いことで学校と放課後で些細なことでもすぐに連絡が出来る。